

本市中学校スクールランチの充実について（前回までの意見から）

「周知方法の改善」にかかわって

○現在の周知方法は、年度初めに保護者向きに「お知らせ」として紙面で行っている。児童・生徒・保護者に十分に認知されているとはいえない。

- ・大津市のチラシはすごく魅力的である。
- ・草津市の通知文は、積極的に手を挙げるができない。今は状況が変わってきて、セーフティネットを幅広く、質の向上も目指そうという流れになっている。
- ・小学校は給食なので、中学校に入ったら弁当が始まるといった負担感やプレッシャーはかなりある。
- ・保護者には、利用したいという潜在的な気持ちがあるのに利用されていない現実がある。親や生徒がスクールランチを知ること、食べたくなる、食べさせたいくなるような弁当が安いコストでできることが望ましい。利用しやすい内容にして、周知方法を工夫することが望ましい。
- ・子どもたちへの周知方法の改善が必要。見て、おいしそうと思えるような、大津市のようなお弁当であれば、頼んでみたいと思うきっかけになる。摂取カロリーを考えたり量の選択ができたりできるのは食育の面でもいい。ランチボックスの工夫も含め、子どもたちも興味を持てる形でよいものが提供できたらいい。

* 利用についてのお知らせ

* 献立表の配布

* 中学校入学説明会での説明

* リーフレット等の配布

* 試食会の実施

「利用しやすい制度」にかかわって

○現在、家庭弁当持参制とし、家庭の都合でどうしても弁当を用意できない時の支援として、スクールランチ制度を導入している。

< 中学校昼食についての方針 >

- ・中学校の昼食は、従来どおり「家庭弁当持参制」を継続する。
- ・弁当を持参できない場合は、それに代わるものを購入して登校させる。
- ・各家庭の希望により、教職員が利用している業者弁当の斡旋を行い、スクールランチとして利用することができるようにする。

—草教委からの通知文より抜粋—

- ・利用した生徒の感想として、温かいご飯が食べられるのは良かった。保護者も喜んでいたが、周りが利用していない中では、気楽には利用しにくい。
 - ・300円くらいで、当日の朝注文ができると利用率が上がります。利用のしやすさをどのくらいにするのが教育的には良いのか。
- 当日の注文を受け付けられるように担当の職員がいれば、当日受付が可能となる。お金のかけ方によってどれだけ頼みやすいか、値段がどれだけ下げられるか左右されてくる部分がある。現在の制度をもう少し利用しやすい方法にしようとする、市の税金をかけて委託費を出すということになり、弁当を持たせていただいている方々とのバランスを考えていく必要がある。
- ・救済のためのスクールランチではなくて、試食会などを通じて利用しやすいように工夫をして、みんなが食べられるようになる環境を整えていったほうがよい。
 - ・年度初めの通知文から特別な理由がないと注文してはいけないという受け取り方となり気軽に気軽に利用できる状況ではない。保護者の負担軽減からスクールランチを頼める雰囲気ではない。

- 現段階でスクールランチについては、特別な場合への対応という位置づけとなっている。
- 業者弁当がスクールランチとして、栄養面も考え、注文の方法もスムーズなものになった場合は、通知文も変わってくる。
- ・大津市はスクールランチの目的として、保護者の負担軽減を趣旨としている。
 - ・大津市、守山市、彦根市を比べると、大津市の利用率が高くなっている。大津市は前日申込みができ、お箸が付いてくる。空き箱の回収があり、ご飯の量も選択できることが利用につながっている。
 - ・仕事を持つようになって、弁当を作ることが煩わしく思うこともあり、そういうときの手助けという意味では、大津市のチラシを見ていいなと思った。保護者の休息という意味では、大津市のスクールランチのチラシを見ると気持ちが和らぐ。
 - ・スクールランチの趣旨について、保護者の負担軽減をと思うのか。
 - ・弁当が持参できない場合、どうしてパンやおにぎりは大丈夫で、コンビニ弁当はだめなのか。
 - ・最近は事前チケット販売という方法がある。半期分のチケットを購入し、事前にチケットを渡す。業者にとってもメリットがある。

- * 制度の目的の見直し・・・保護者の負担軽減
- * スクールランチ事業の位置づけ
- * 注文や支払い方法の改善

「利用しやすい価格」にかかわって

- 昨年度のアンケート調査結果から、安価な価格（一食あたり300円台）があげられた。弁当業者から協力を得るためにも、弁当業者の採算をある程度確保することが必要となる。
- ・大津市、守山市、彦根市を比べると、大津市の利用率が高くなっている。値段設定が400円。コンビニで買うと400円を超えることがあり、守山市は500円でコンビニの方が安いと思える。彦根市は320円で安いですが、申込みや持ち物で煩わしい面がある。
 - ・市からの税金の持ち出しが多いほど、弁当が安くなる。一市民と保護者の立場では、捉え方には違いがあるが大津市は費用は高いと思う。子どもの弁当は保護者が準備することが当たり前と思う方もいる。
 - ・パンやおにぎり代等とコンビニ弁当との兼ね合い
 - ・300円台での斡旋（200円台での弁当もでてきた）

「献立の充実等」にかかわって

- 昨年度のアンケート調査結果から、児童・生徒は中学校昼食として家庭弁当を希望している。「お弁当のほうがおいしいから」、「メニューや量が調整できるから」という理由が多い。
- ・現制度のスクールランチが教師も食べている業者弁当なので、大人の食べる弁当という感じで「弁当箱の形」などに抵抗がある。
- 弁当箱については、中学生の向けのものにすることが効果的であるのであれば、仕様で業者に委託する方法もある。
- ・女子生徒は、量が少なく、見た目もかわいい入れ物などにこだわっている。
 - ・スクールランチボックス（容器）の工夫

- * 献立表・チラシの提供・配布
- * ご飯の量の調整・選択
- * 注文する日の選択
- * スクールランチボックス（容器）の工夫

「事務手続きの軽減」にかかわって

○教職員に「仮に家庭弁当持参を原則としなかった場合、心配されること」を聞いたところ、「支払いに関して問題が起こる」、「教職員の業務が増える」が上がった。

- ・システムとして、注文漏れなどにより子どもたちが食べられなくなることを避けるために教頭が窓口となっている。このままで利用が増えると、受付やお金の受け渡しも含め課題が出てくる。
 - ・予約申込み・受付、支払い・配食受渡・回収を業者が対応。代金未納の場合も業者が対応。
 - ・弁当業者は2社が入り、30人ほどの教職員が天津市のスクールランチと同じように、1か月のメニュー表から注文している。そうした中で、代金の払い忘れ、釣りの取り違い、弁当を取り忘れ、注文の有無の勘違い等の注文ミスがある。教職員同士ですので謝ることで許されますが、生徒の分であったら許さないの、天津市のように現場に負担のかからない方法をベースに考えることが望ましい。
 - ・注文する生徒が少ないので、教頭が対応しているが、利用増を考えると不安である。
 - ・学校でのスクールランチ事業の担当者としての職員配置が可能か。
- 委託料の中に含めて業者に人の配置をお願いするのか、臨時職員などを雇って配置するのかといった方策はあるが、経費のかけ方の話となる。現場の負担軽減に向けては、委員会のまとめとして残していきたい。

* 注文や支払い方法の改善

* 委託業者による販売（手渡し）や申込み（注文）

* 配食と回収のシステム

「その他」

- ・朝食を食べてこない生徒が増えている中、昼食もおにぎりか菓子パンしか食べないのであれば、栄養面で心配。先生方の負担も考えると、栄養の面と食育の面も考えて利用しやすくすることが必要である。
- ・夕食の時間が塾などにより遅くなり、簡単に済ませている生徒が多い。家庭科の授業では、栄養バランスについて学び、自分の食生活について気づくことも多くある。自分の弁当が栄養バランス良く作られていることに気が付く生徒もいる。スクールランチを進めることでスクールランチから始める食育もできる。子どもの嗜好だけで選ぶメニューではなく、栄養のバランスが取れていて、弁当の蓋に栄養のことが書いてあると面白い。
- ・子どもたちへの食育面を考えると、彦根市のようなお箸だけ持ってきて自分で洗うといった視点もあったほうが良い。
- ・残菜が増えてくる年頃。業者に回収されて、どれだけ残したかわからないという状況は、問題はないだろうか。
- ・残菜については、献立が付いているので、選んだものを残すことは少ないのではないか。

* 食育推進の観点、地産地消の推進の観点

* 家庭弁当レシピの提供・配布

* 家庭科における調理実習（弁当づくり）